

公正取引委員会まえで座り込み抗議行動

不当なカルテル判定・不正な排除措置命令・不法な課徴金納付命令に怒りの声
(全自交新潟地連・交通労連ハイタク部会・連合新潟)

2011年11月15・16日 公取委へ抗議の座り込み

「公正取引委員会は新潟の事業者に対するカルテル認定を撤回しろ」「公取委は新潟のタクシー労働者の雇用と生活を奪うな」との怒りの声が、11月15日、16日の両日、東京・霞ヶ関に響き渡りました。これは、公取委が10月半ばに、新潟交通圏のタクシー運賃改定についてカルテルと断定し、「排除措置命令」及び「課徴金納付命令」の事前通告を行ったことに対し、全自交新潟地連など新潟のタクシー労働者80名が上京、公正取引委員会前に座り込んで抗議行動を繰り広げたものです。



15日の昼前、労連本部の宣伝カーが待ちかまえる公正取引委員会の前に、新潟からの仲間を乗せたバスが到着。明け番での長旅にもかかわらず、早速、のぼり旗やプラカードを掲げ、公取委の入っている建物の前の歩道に整然と座り込んで抗議行動が開始されました。両日の行動は、全自交新潟地連宮沢勝正委員長と交通労連の新潟の組織が中心となって取り組み、さらに全自交労連伊藤実中央執行委員や私鉄総連ハイタク協議会の代表らも駆けつけてくれました。

行動の始めに挨拶に立った全自交労連の伊藤実中央執行委員長は、「公取委がカルテルと認定したことは、何の根拠もない理不尽な判断だ。多額の課徴金を払わされたら潰れる会社が出て失業が発生する、また、賃下げを余儀なくされる。

これは雇用・労働問題だ。新潟だけの問題ではなく全国の問題であり、全自交労連として全力で対応していく」と参加者を激励しました。

16日は早朝から公取委の前に全国から参集した全自交労連の中央執行委員30名が合流し座り込みを再会。ここには前日の全自交本部の会議に出席した中央執行委員も参加し、全国各地域を代表して新潟の仲間と連帯するとともに、替わる替わりにマイクを握り、公取委に向かって抗議の声を上げ、シュプレヒコールを繰り返しました。さらに、宮沢委員長を先頭に新潟の仲間も全員がマイクを持ってハイタク労働者の窮状を訴え、公取委に怒りをぶつけました。